

低線量被曝に向き合う

チェルノブイリからの教訓

人体、とりわけ子供に対する放射線の影響を、25年間に

およぶ研究現場から最新の研究成果を日本に紹介します



Y.ステパーノヴナ

ウクライナ国立放射線医学
研究所 小児放射線部長/
国際リスク分析委員会委員



M.マリコ

ベラルーシ科学
アカデミー主任研究員/
欧州放射線リスク委員会委員

コメンテーター:

今中哲二(京都大学
原子炉実験所)

日時:4月21日(土) 14時~18時

場所:東京大学弥生講堂(本郷キャンパス)

資料代:1,000円(一般)500円(学生)

どなたでも参加できます

地下鉄南北線東大前駅 徒歩1分/千代田線根津駅 徒歩8分

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

連絡先:東京大学東洋文化研究所 長沢研究室

電話:03-5841-5887

email:nagasawa@ioc.u-tokyo.ac.jp

共催:市民と科学者の内部被曝問題研究会
北海道大学 GCOE 境界研究の拠点形成
東京大学「低線量被曝に向き合う」講演会
実行委員会

協賛:日本科学者会議

協力:東京大学原発災害支援フォーラム
(TGF)/東京大学大学院総合文化研究科

「人間の安全保障」プログラム/
NIHU プログラム・イスラーム地域
研究東京大学拠点

